

いわき農林事務所ニュース 2005年5月号

活動状況

○ 霧害の未然防止に向けて ～いわき地方防霧対策本部が設置される

平成17年4月1日（金）、晩霜による農作物被害の警戒時期を迎え、いわき市やJAなどの関係機関が参集して、「平成17年度いわき地方防霜対策本部会議」が県いわき合同庁舎において開催され、期間は5月31日までの2カ月間(かん)、いわき地方防霜対策本部（本部長：小山正雄・県いわき農林事務所長）が設置されました。

会議では、霜に関する情報の伝達方法や被害発生時の状況把握、各作物の防霜対策技術などについて協議し、関係機関の役割を確認しました。

会議終了後、県いわき農林事務所農業普及部に「いわき地方防霜対策本部」の看板が設置され、防霜対策がスタートしました。



対策本部の看板を設置した

○ 「小さな火 山に捨てると 大きな火」 ～山火事防止パレードを実施

平成17年4月7日（木）と同14日（木）の2日間(かん)、いわき地方山火事防止対策協議会主催による平成17年度山火事防止パレードが行われました。

毎年春先は、山火事が発生しやすいことから、いわき市、市消防本部、磐城森林管理署、市森林組合、県地方振興局、県農林事務所などの関係機関が参加して、いわき市各地を巡りながら山火事防止を呼びかけています。

山火事は、空気が乾燥しやすく入山者が多いこの時期に多発していますが、その原因のほとんどはたばこの投げ捨てやたき火の不始末など、人の不注意によるものです。

残念なことに、4月8日には内郷地区で被害面積が約48haという大規模な山火事が発生しました。森林は大切な自然財産であり、関係者一同これからも継続して山火事予防の普及啓発に努めてまいります。

今年の山火事防止の統一標語は、「小さな火 山に捨てると 大きな火」です。皆様の御協力をお願いします。



チラシや風船などを配布して
山火事防止を呼びかけた

トピックス

○新舞子浜で森林ボランティアが松食い虫に強いクロマツなどの苗木を植栽

平成17年4月10日(日)、いわき市平下神谷で森林ボランティアによるクロマツの植栽活動「新舞子ふれあいの森」森林整備事業が実施されました。

この活動は、新舞子の海岸林を保全するためいわき青年林業会議所が主催し、年2回、植栽や下刈り作業を行(おこな)っているもので、今回で10回目を迎えました。

当日の参加者は約50名で、同会議所のメンバーを含む関係者のほか、地区住民や市の水源サポーター養成講座受講者などのボランティア等でした。

今回植栽したのは、クロマツのポット苗が900本、県林業研究センターが育成した松くい虫に強いクロマツの苗が150本の計1,050本で、参加者たちは、くわで穴を掘り、苗木を一本ずつ丁寧に植栽していました。

夏には、これまで植栽したクロマツ林の下刈り作業を行う予定であるため、いわき青年林業会議所では再度ボランティアを募集しています。この活動に関心のある方(かた)は是非下記まで御連絡ください。

連絡先

いわき青年林業会議所事務局 松崎
〒970-8026
いわき市平字(あざ)正内町107-3
いわき市森林組合内
電話0246-23-1599
Fax 0246-23-1526



クロマツの苗を丁寧に植培する参加者

○種芋の植え付けを体験 農業ふれあい講座の開園式が開催される

平成17年4月23日(土)、いわき市平荒田目の農業ふれあい講座ほ場において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催の「農業ふれあい講座」開園式が開催されました。

この講座は、いわき市在住の一般消費者へ、野菜の種まき、定植、収穫などの一連の体験ができる場を提供し、農業への関心と理解を深めてもらうことを目的に平成12年から実施されているもので、当協議会のクラブ員が栽培のアドバイスを行(おこな)っています。

当日は、晴天に恵まれ、期待に胸をふくらませた10家族11名の方が参加しました。

この日は、クラブ員の指導のもと、みんなでじゃがいもの種芋の植え付け作業を体験しました。これからの栽培管理について熱心にクラブ員へ質問する家族もあり、農業ふれあい講座への意欲が伺えました。今後は、各家族が決められたほ場で色々な作物を栽培することとなります。

農業ふれあい講座の今後のスケジュールは、このあと5月中旬にサトイモの植え付けと栽培指導会、7月にほ場品評会、10月には収穫祭となっています。



開園式の様子

○今、つながりの時代に

～「川の流れ、人のつながり 鮫川流域の食と暮らし再発見」を発行

いわき農林事務所では、地方振興局企画調整事業を活用した「鮫川流域における食と暮らしの再発見」事業を平成15、16年度の2カ年で実施してきましたが、このたび事業の成果を冊子に取りまとめた「川の流れ、人のつながり ～鮫川流域の食と暮らし再発見」を発行しました。

この冊子は、鮫川流域における人々の食と暮らしにスポットをあて、山から海に至る自然と自然・自然と人間・人間と人間のつながり等の中で、循環の理念の大切さについて理解を深めながら、地域の良さを再確認し、地産地消やスローフード運動の発展につなげることを目的として作成されました。

この冊子の中では、紙漉き(かみすき)や木挽き(こびき)、野菜づくりなど13名の「暮らし」や、キジ飯やイノシシ汁、しそみそ焼きなど昔ながらの料理39品のレシピを紹介しています。そのほか、みそ作りや田人のこんにやくなどをコラムで掲載しています。

またこの冊子は、県内の図書館、各関係機関、いわき市内の学校、うつくしま農林水産ファンクラブ会員などに配布したほか、取材を行ったいわき市勿来、遠野、田人(たびと)地域在住の希望者に配布しました。また、購入希望者には田人地域振興協議会(事務局:田人支所)が実費でお分けしています。

川(流域)の持つ双方向の「つながり」を大いに感じ取ってもらい、自分たちの地域の良さををもう一度見つめ直すきっかけとなることを期待しています。



流域のさまざまな食や暮らしを紹介

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]